



J-WIT (Japan Women in Thyroidology)

女性甲状腺医/研究者支援委員会から皆さまへ

日本甲状腺学会では、これまで百溪 尚子先生をはじめとする数々の素晴らしい女性甲状腺医の先生方が患者様に寄り添い、研究者としても国内外でご活躍されて来られました。J-WIT(Japan Women in Thyroidology)は、2018年に、当時、日本甲状腺学会で初の女性理事となられた荒田 尚子先生のご発案で発足しました。立ち上げには当時の山田 正信理事長、素晴らしい先輩である坪井 久美子先生、宮川 めぐみ先生等のお力添え、女性会員の皆様のご協力を頂きました。米国甲状腺学会 ATA の WIT(Women in Thyroidology)の活動も参考にさせて頂きながら、日本甲状腺学会学術集会での企画（講演、ワークショップ、意見交換会など）を行ない、その結果をもとに学会内での報告や提言等も行なわせて頂きました。

2021年11月に新理事会が発足し、菱沼 昭理事長のご指導のもと、日本甲状腺学会の正式な委員会「J-WIT 女性甲状腺医/研究者支援委員会」として、新委員(委員長: 片井 みゆき理事、副委員長: 荒田 尚子監事、幹事: 吉原 愛評議員、委員: 橋本 貢士理事、渡邊 奈津子理事、中村 はな評議員、小林 佐紀子評議員、野村 恵巳子評議員、堀内 喜代美先生、大桑 恵子先生、児玉 ひとみ先生、阿部 清美評議員、松瀬 美智子評議員)が理事会で任命され、新たな活動を開始しております。この度のJ-WIT 企画を通して、学会場でお会いした先生方から「自分もJ-WIT 活動に参加してみたい」という嬉しいお声がけを男女問わず複数いただきました。そこで、今後、たとえば「J-WIT Friends」のような形で、希望される学会員の皆様には人数の制限なく、気軽に活動にご参加いただけるような仕組みづくりも検討しております。

先の2022年11月1-3日に大阪で対面開催された第65回日本甲状腺学会学術集会においては、豊田 長興大会長のお力添えにより「J-WIT 女性甲状腺ワークショップ 特別講演」プログラムを企画させて頂き、男性も含め多数の会員の皆様にご参加を頂き、成功裡に終えることが出来ました。本企画のために、米国内分泌学会(ENDO)理事長を務めた Susan J. Mandel 教授からも、J-WIT への特別ビデオメッセージを頂戴し、心打たれる素晴らしいエールのお言葉を皆で拝聴いたしました。

この度、菱沼 昭理事長、田上 哲也理事(広報担当)のご厚意により、学会ホームページにJ-WIT 専用バナーを頂けることになりました。このコーナーが、J-WIT 活動の紹介、交流や情報交換の場として、相互の親睦と活動の活性化に繋がればと存じます。その第一歩として、先の学術集会で配布させて頂きましたJ-WIT 企画リーフレット、Mandel 教授のメッセージ全文の和訳と英文を掲載させて頂くことにしました。当日参加が叶わなかった会員の方々をはじめ多くの方々にご覧いただけましたら幸いです。追って、他の演者の先生方の Take Home Message も掲載させていただく予定です。楽しみにお待ちください。

日本甲状腺学会 理事(女性支援・多職種連携担当)・J-WIT 女性甲状腺医/研究者支援委員会 委員長

片井 みゆき (2022/11/16 記)

第 65 回日本甲状腺学会学術集会

J-WIT 女性甲状腺ワークショップ

日程：2022 年 11 月 2 日(水) 16:50-17:50

会場：第 2 会場（大阪国際会議場 10F 会議室 1009）

座長： 荒田 尚子 （国立成育医療研究センター 周産期・母性診療センター 母性内科）

片井 みゆき（国立大学法人 政策研究大学院大学 保健管理センター）

特別企画：米国WIT・ENDOを代表しJ-WITへビデオメッセージ

Prof. Susan J. Mandel

Past President, Endocrine Society, U.S.A

Chief, Division of Endocrinology, Diabetes, and Metabolism

Perelman School of Medicine, University of Pennsylvania

演者： 女性甲状腺医として：現在そして未来、次世代へのメッセージ

1. 伊藤病院 内科 鈴木 菜美先生

2. 国立成育医療研究センター 分子内分泌研究部 中尾 佳奈子先生

3. 昭和大学横浜市北部病院甲状腺センター 外科 大桑 恵子先生

4. 東北医科薬科大学 内科学第三 腎臓内分泌内科 中村 はな先生

応援メッセージ：日本甲状腺学会 理事長 菱沼 昭先生



Japan-Women in Thyroidology

J-WIT 女性甲状腺医/研究者支援委員会

委員長：片井 みゆき、副委員長：荒田 尚子、幹事：吉原 愛、委員：橋本 貢士、渡邊 奈津子、中村 はな
小林 佐紀子、野村 恵巳子、堀内 喜代美、大桑 恵子、児玉 ひとみ、阿部 清美、松瀬 美智子

マンデル教授と豊田大会長のご快諾を頂いた上で、本メッセージを掲載させて頂いています。

第 65 回日本甲状腺学会年次大会における J-WIT 特別プログラム

スーザン・マンデル教授からのメッセージ

2022 年 11 月 2 日開催



スーザン J. マンデル MD MPH

米国内分泌学会 元理事長

内分泌・糖尿病・代謝科長

医学および放射線学の教授

ペンシルベニア大学ペレルマン医科大学

こんにちは。Japanese Women in Thyroidology (J-WIT) 委員会企画で、直接ではなくても、ビデオを通じて皆さんにお話しできることを大変嬉しく思います。

まず初めに、長年の友人である豊田長興先生へお祝いを申し上げたいと思います。ハーバード大学のブリガム・アンド・ウィメンズ・ホスピタルで、リード・ラーソン博士の元、二人で実験研究を行っていた時からですので、どんなに長い付き合いであるかしれません。また、2019 年には、日本内分泌学会に参加し日本を少し旅行した際に、京都で豊田先生ご夫妻とお会いしました。彼らは私を案内してくれ、共に素晴らしい一日を過ごしました。豊田先生、大会長のご就任おめでとうございます。第 65 回日本甲状腺学会学術集会が素晴らしい会合となることを確信しております。

そして、私にとって非常に親近感を覚え、大切なことは、今回が J-WIT 委員会の新メンバーにとって初の会議であり、13 人の委員のうち荒田尚子先生と片井みゆき先生を含めた方々と、2019 年 5 月に仙台で開催された日本内分泌学会の女性内分泌グループ JES We Can でお会いしていることです。あなた方をよく覚えています。私たち皆で撮った素敵な写真を送っていただき、ありがとうございます。ここアメリカまたは日本で開催される会議で直接お会いできることを楽しみにしています。



2019 年仙台でマンデル教授を囲んで。

現在の J-WIT 委員のうち：渡邊 奈津子先生(一番左)、荒田 尚子先生(左から 3 人目)、吉原 愛先生(左から 4 人目)、片井 みゆき(マンデル先生の右手側の隣)、小林 佐紀子先生(一番右)。そして、左から 2 番目は坪井 久美子先生、百瀬 尚子先生、宮川 めぐみ先生らと共に女性甲状腺医・研究者の先駆者として私たちを導いて来られました。

では、始めましょう。

甲状腺学における女性 Women in Thyroidology、あなた方は自分達を J-WIT と呼んでいますね。甲状腺学の女性 WIT W-I-T は英語の単語です。ええと、私はいつも定義から始めるのが好きなので、WIT は英語で言えば、頭脳明晰、発明力、鋭い知性を意味します。素晴らしい女性甲状腺専門医のグループにふさわしい名前です。幸運にも、米国と同様、内分泌学と甲状腺学の両方の女性メンバーであることを知っています。WIT という適切な名前が付けられているこれらのプロフェッショナル グループは、多くの理由から私たちのコミュニティにとって唯一無二の人材であり、グループの目標として構想していること(*註を参照)の中で、あなた方自身がそれを特定しています。

*註) マンデル先生へ事前にお知らせした J-WIT 設立の目的と活動目標

Women in Thyroidology of Japan(J-WIT)・女性支援委員会内規から抜粋

第 2 条 Women in Thyroidology of Japan(J-WIT)・女性支援委員会は
甲状腺学の進歩・向上をはかるために、女性支援の推進を行うことを目的とする。

第 6 条 その目的達成のために下記の項目について企画・立案・実施を行う。

- 1) 女性甲状腺専門家を育成すること
- 2) 各種分野の女性甲状腺専門家間の交流を深めること
- 3) 日本甲状腺学会内でのダイバーシティを推進すること
- 4) 女性評議員(法人社員)数を増加させること
- 5) 女性の健康に関連した甲状腺の話題を、日本甲状腺学会内外に広めること

まず、それは自分達自身をサポートすることです。私たちはコミュニティであり、私たちは自分達自身をサポートしたいと考えており、互いのネットワークを作ること(ピア ネットワーキング)ができます。私たちは仕事のためのコミュニティを構築していますが、友情のためのコミュニティも重要です。私の最も親しい友人の何人かは、Women in Endocrinology(内分泌学の女性) や Women in Thyroidology(甲状腺学の女性)を通して知り合った女性達であり、生涯の友人です。私たちにできることは、年次総会で学ぶためのプログラミングを提唱することです。さて、これには科学的プログラムだけが含まれているわけではありません。話は戻りますが、リーダーシップやレジリエンスなどのスキルを教えるプログラムを含めて、科学プログラムを超えたトピックを含めることができます。

メンターシップについて教えてくれるプログラム、昇進について教えてくれるプログラムなどを、メイン ミーティングや年次ミーティングに取り入れることができなければ、これらのトピックの 1 つについてでも話すスピーカーを入れる選択肢もあるかもしれません。重要なこととして私は確かに多くの国際学会に参加してきましたが、女性が過小評価されがちなこれらの学会において、女性のリーダーシップを提唱することは、今も依然として非常に重要なのです。したがって、WIT は学会における女性のリーダーシップを提唱することもできますし、プレゼンテーション、レビューや章の執筆者への指名、出版物や賞に対して、女性の起用を提案することもできます。したがって、WIT の一部として推薦委員会を持ち、学会のより大きな推薦委員会と連携することは非常に重要であり、そうすれば科学を進歩させることができます。プログラムを見て、女性の健康に関連する特定のトピックがプログラムに含まれているかを確認し、それらを提案することができます。

ですから、これらはすべて学会内で自分達をサポートするためのものですが、同じく重要なことは次世代をサポートすることです。近年、私たち、内分泌や甲状腺分野では、若い世代の研修医や大学教員の女性比率がどんどん増えています。したがって、最終的には、学会旅費の助成金(トラベル グラント)や賞、若い女性大学教員がプレゼンテーションを取得するためのリソースを用意して、会議で提案するか、WIT または J-WIT メンバーが若い女性のポスター発表を見に行くこともできます。

あなた方はメンターシップに取り組むことができます。それは個人的な関係として、あるいは全国集会の中のプログラムに入れるなど、いずれの可能性もあり、これらはすべてあなた方ができることです。そして、最も重要なのは、あなたのお手本だった誰かのように、あなた方はお手本として次世代をリードできます。30 年前に、女性は誰がいましたか？あなたの役職に就いていた人は誰でしたか？当時、あなたの現在の役職には女性がいませんでした。あなた方は、今、道を切り開いているのです。模範を示すことで、これらの若い女性は、あなた方のようにリーダーシップを発揮している人を見ることができ、あらゆることが可能になり、これらすべてが多様性を高めます。これは、学会のすべての人にとって、非常に良いことです。

ですから、これらはすべて重要な目標であり、そのうちのいくつかは私もずっと共有してきたものですし、皆さんも全く同じように考えていることを知っています。しかし、重要なのは、私たちがより広いコミュニティであることです。繰り返

返しになりますが、皆さんの間で、そのネットワークを 1 年中維持し、日本甲状腺学会だけでなく、自分自身の施設でもアドバイスが必要な場合には、時々、互いに連絡を取り合ってください。また、女性としても、私たちは、家族と関わり、友人に連絡を取り、彼らがどのように生活と仕事と家族のバランスをとっていくのかについてアドバイスし、役に立つことができると思います。

しかし、同様の国際グループと関係を築く機会もあります。私はモントリオールで開催されたアメリカ甲状腺協会から戻ったばかりです。ATA Women in Thyroidology の現会長であるアンジェラ ラングからの、あなた方への挨拶をお伝えします。今回の会議後、彼女は私たちのつながりができるよう、あなた方のグループと連絡を取ることを楽しみにしています。そして、Women in Thyroidology グループがあることは、実際にはそれほど一般的ではないことが判明しました。私は実際にヨーロッパ甲状腺学会とラテンアメリカ甲状腺学会の同僚と話しましたが、彼らは WIT を持っていませんでした。ですから、ATA にも豊田 長興博士にとっても、あなた方にとっても、日本甲状腺学会に J-WIT が存在することは非常に幸運なことです。J-WIT は今の世代と次世代の女性をサポートし、国際的に協力し、多様性を高めることによって、私たち全員に利益をもたらします。今回の会合おめでとうございます。私もそこに居られたらいいのにといいながら、将来、またお会いできることを楽しみにしています。私たちが前進し、協力していく中で、皆さんにお会いできることを楽しみにしています。あなたの学術集会を、楽しんで下さい！



英文はマンデル教授のメッセージ動画から書き起こし、青字は補足部分です。和訳は意識を含みます。

文責：片井みゆき（日本甲状腺学会 理事 / J-WIT 女性支援・他職種連携委員会 委員長）

With the kind permission of Prof. Susan Mandel and Prof. Toyoda, the President of the conference, we are posting this information on our JTA website.

Message of Prof. Susan Mandel for J-WIT Special Program at 65th Annual Meeting of Japan Thyroid Association on November 2nd, 2022



Susan J. Mandel MD MPH
Past President of the Endocrine Society, U.S.A
Chief, Division of Endocrinology, Diabetes, and Metabolism
Professor of Medicine and Radiology
Perelman School of Medicine, University of Pennsylvania

Hello. It's a real pleasure for me to be here via video not in person to address you at the first inaugural meeting of the Japanese Women in Thyroidology.

First I would like to congratulate Dr. Nagaoki Toyota, whom I've known for many years. We won't say how long when we were both doing laboratory research with Dr. Reed Larson at the Brigham and Women's Hospital at Harvard. And I also had the pleasure in 2019 when I was at the Japanese Endocrine Society of touring a little bit in Japan and I visited Nagaoki and his wife in Kyoto and they escorted me for a wonderful day and it was fantastic to be with them. So, Congratulations Nagaoki and your presidential position and for on what I'm sure is a fabulous meeting of the Japanese Thyroid Association.

But, what is so near and dear to me is the fact that this is the inaugural meeting of J-WIT and I've been told there are thirteen members there including two wonderful physicians whom I had the pleasure of meeting at "JES We Can" so the women in endocrinology group that's part of the Japanese Endocrine Society at the May 2019 meeting in Sendai and those are Dr. Naoko Arata and Dr. Miyuki Katai and I remember you both so well. Thank you so much for sending me that lovely photo of all of us and I do hope to see you in person at a meeting either here in the United States or in Japan.



Surrounding Prof. Mandel at Sendai in 2019. Current J-WIT members: Drs. Natsuko Watanabe (far left), Naoko Arata (third from left), Ai Yoshihara (fourth from left), Miyuki Katai (next to Professor Mandel's right-hand side) and Sakiko Kobayashi (far right). Second from the left is Dr. Kumiko Tsuboi, who, with Drs. Naoko Momotani, Megumi Miyagawa, and others, has led us as a pioneer of female thyroidologists.

But let's start.

Women in Thyroidology and you're calling yourselves J-WIT, women in Thyroidology WIT W-I-T is an English word. Um and I always like to start with definitions, so which means in English, mental sharpness, inventiveness, and keen intelligence. I mean what an appropriate name for a group of amazing women Thyroidologists and I know that I am fortunate to be members of both we women in endocrinology and women in thyroidology as well in the United States. So, these professional groups that are so aptly named with WIT... are unique resources to our community for many reasons and I think you've identified that yourself in what you are envisioning as your goals for your group*.

*Below is the purpose of establishment of J-WIT and its activity goals.

The Japanese Thyroid Society established Women in Thyroidology of Japan (J-WIT) as one of its committees in 2018 with the aim of advancing and improving thyroidology and promoting support for women.

The J-WIT is made up of 13 members, including physicians, surgeons, and researchers.

Specific activity goals are as follows.

- 1) Training female thyroid specialists.
- 2) To deepen exchanges among female thyroid specialists in various fields.
- 3) Promoting diversity within the Japanese Thyroid Society.

4) Increase the number of female councilors.

5) Disseminate thyroid topics related to women's health both inside and outside the Japan Thyroid Society.

So first, it's supporting yourself so we are a community so we want to support ourselves and there is peer networking. We build a community for our work but also importantly a community for friendship and some of my closest friends are women that I have met through either women in endocrinology or women in thyroidology and those are lifelong friends. What we can also do is we can advocate programming for learning at annual meetings. Now, that doesn't just include scientific programming. I'll come back to that but can we include programming that teaches us skills like leadership and resilience so topics that extend beyond the scientific program.

Programs that teach us about mentorship, programs that teaches about advancement and those are things that if you don't incorporate in the main meeting, at your own annual meeting, you may have a speaker that addresses one of those topics. Importantly and I've certainly been to many international societies, it's still very important to advocate for leadership for women in these societies where women are often underrepresented. So, WIT can advocate for leadership in societies but also can advocate for women, to suggest women for presentations, for invited reviews or chapters, for publications as well as for awards. So, having a nomination committee as part of WIT and having that relationship with the larger nomination committee of the Society is very important and then you could advance science. You can look at the program are there specific topics related to women's health that you think may be relevant to include in the program and you can suggest those.

So, those are all things for supporting yourselves within the Society, but it's equally important as you know to support the next generation in our trainees and more and more of our trainees and young faculty members are women. So, you can hopefully, eventually have resources to get travel grants and awards and dedicated presentations for young women faculty make presented either your meeting or that you can make sure that members of WIT go or J-WIT go and visit their posters.

You can work on mentorship and then that can either be individual relationships or programming during a national meeting so those are all types of things that you can do, but most importantly you lead by example because who were your examples. Who were the

women 30 years ago? Who were your positions? There weren't women and you are creating your pathways but by leading by example, these younger women can see people like themselves, like you in leadership and anything becomes possible and all of this increases diversity which is a very good thing for everyone in a Society.

So, all of these are important goals and I know some of them have been shared with me and I know that you're thinking very much the same. But what's important is we're a broader community. So again, among yourselves, keeping that networking going on year long, reaching out to each other, not just at the Japanese Thyroid Society but intermittently if you need advice at your own institution. Also I think as women, we have...um we are involved in our families and reaching out and speaking to our friends about how they're balancing their life and their work and their family is very helpful.

But there's also the opportunity to build relationships with similar international groups and I just returned from the American Thyroid Association that was held in Montreal and I bring you greetings from Angela Lang who is the current president of the ATA's women and thyroidology and after your meeting she looks at look forward to reaching out with your group so we can make some connections. And it turns out that having women in thyroidology group is actually not that common. I actually spoke to my colleagues at the European Thyroid Association and the Latin American Thyroid Association and they do not have a WIT. So, we are very fortunate in the ATA and Doctor Toyota Nagaoki, you are very fortunate now and the Japanese Thyroid Society that there is a J-WIT that can support women of this generation and the next generation, collaborate internationally and by increasing diversity, benefit all of us. So, Congratulations on this inaugural meeting. I wish I could be there. I hope to see you sometime in the future and I look forward to meeting you as we move ahead and we collaborate. Enjoy your meeting!



The English text is transcribed from Prof. Mandel's message video.

Blue letters are supplementary parts.

Transcription and written

by Miyuki Katai (Board of Japan Thyroid Association / Chair of J-WIT Committee)